翻訳　言語　文化 I love you

…翻訳できる、と翻訳できない、のあいだ…

I love youを翻訳しよう

ねらい：　「和訳」と違う、正解のない「翻訳」とは何かを考える。

　　　　　　言語の文化的・社会的・歴史的背景と翻訳との関わりを感じることができる。

対象：中学生以上

時間：30分〜

準備：配布資料を印刷

進め方：　資料にそって進め、問いについて翻訳を試みる。

　　　　　回答は適宜比べ合い、話し合いを行う。

　 　＊なお問い３の訳、鴻巣さん自身は「兄貴、死ぬんじゃないぞ」としている。

発展：　　身の回りに、翻訳しづらさを感じることばはあるだろうか。周りの人に取材し たり、自分の経験から照らして、方言や、外国語など、翻訳しづらい、と思う ことばを探してきて報告しよう。また、そうしたことばの翻訳を通して、ある いは翻訳の難しさを 通して、異なる言語のあいだにある溝に注意を向けてみよ う。

　 　たとえば、アフリカのフルベ族のことばには「イェーウトゥゴ」ということば があり、その意味は「夜の闇のなかで寂しくしている人をその寂しさから解放す るために声をかける」ことだという（鴻巣）。

　 　また、教材「25の音」で使用した「木漏れ日」ということばは、あるオンライ ンのサイト（「maptia」）で、翻訳しづらいことばの代表に選ばれている。

<http://blog.maptia.com/posts/untranslatable-words-from-other-cultures>

　なお、上記ページには、インドネシア語の「jayus」（あまりに面白くなさ過 ぎて笑わずにはいられない冗談）や、イタリア語の「culaccino」（冷えたコッ プのせいでテーブルの上にできた跡）などの11の例が紹介されている。なぜこの ようなことばが用いられているのか、その背景について想像してみよう。

配布資料

I love youを翻訳しよう

　みなさんは、「I love you」という英語を聴いたことがあるでしょう。

問い１）　日本語では、なんと訳しますか。

答え）

　その訳は、英文和訳の「答え」として正解かもしれません。けれど、ふだん、日本語で本当に、今の「答え」を使っているでしょうか。または、実際に使われているのを、見たり聴いたりしたことは、あるでしょうか。

　かつて私が、モンゴルに留学していたときのことです。ブリヤート（注１）からやってきたブリヤート人の留学生の女性が、大変すばらしいロシア語を話すので、共通語のモンゴル語を介して、ロシア語の初歩をちょっとだけ教えてもらうことになりました。（彼女がロシア語が上手なのは、それもそのはず、ロシア語が母語で、ロシア語で教育を受けてきたからでした。）

　そのとき私に示された例文が

「私は母を愛している」

でした。

　ロシア語でこうだよ、と彼女が示します。

　そのとき、「いやいや、母を愛している、とか、日本語ではいわないから」と私が（語学を学ぶ生徒としてあるまじき態度で）いうと、彼女はとても驚き

「なぜ？母親を愛していないのか？」

「そういうわけじゃなくて、愛していたとしても、ことばにしないんだよ、日本では」

「どういうことだ？！愛しているといわないって？　じゃあ、I love youはどういうんだ？」

「I love youもいわないの」

「・・・？！」

余計にわからない、という態度で、頭を抱えてしまう彼女。

　当時の私の意図を補足してくれる有名なエピソードがあります。作家、夏目漱石が英語教師をしていたときのこと。生徒が「I love you」を「我君ヲ愛ス」と訳したとき、漱石は「月が綺麗ですね」としなさい、といったといいます。

　英文和訳のテストで、これをやったら点数はもらえないかもしれません。けれど、翻訳ではどうでしょうか。やはり、面と向かって「愛している」と伝えることは、日本の文脈にそぐわない面があるのかもしれません。今はそうではないのかもしれませんが、少なくとも、明治の日本ではそうだったのでしょう。翻訳家の鴻巣友季子さんは、家族の間にせよ、男女の間にせよ、「愛している」と言い合う習慣自体が、日本にはなかったといいます。「愛」とう文字が日本に入って来たのは奈良時代だったけれども、現在のような意味では使われてはいなかったのです。愛ということばが現代的な意味で使われだすのは、明治時代、西洋からキリスト教の教えが入って来たことがきっかけになったとのこと。

　このI love you をめぐる問題は日本の習慣の問題ですから、英語、ロシア語など、特定の言語だけの問題ではないのです。私は今でもときどき、モンゴル人の若い方で、日本語を勉強中、という方から「ビー・チャムド・ハイルタイ」って、日本語でなんていうの、と質問されることがあります。「ビー・チャムド・ハイルタイ」、これは、モンゴル語です。

　ビー＝私

　チャムド＝あなたに

　ハイルタイ＝愛を持っている

　英語でいえば、I love youです。モンゴルは、「言い合う」社会なのでしょうか。しかし、これも私には答えづらく、私は質問されるたびに、答えに困ってしまいます。こなれた日本語にならないので、いっそ、I love you、と答えてしまいたいなあ、と思うほどです。

　上記のブリヤートの留学生の母語は、ロシア語でした。顔立ちはモンゴル系のアジア的な顔立ちで、ロシア人よりは断然日本人に近いです。昔のブリヤートで、「愛している」と言い合う習慣があったのかどうか、不勉強なためわかりません。でも、「愛している」と言い合う習慣自体が西洋のものだったとしたら—ひょっとしたら、驚いているあなたの、おじいちゃんおばあちゃん達や、そのまたおじいちゃんおばあちゃん達は、「月が奇麗ですね」と語り合っていたかもしれない、と、流暢なロシア語を話す彼女を通してそんなことを思ったことを覚えています。

問い２）　漱石のアドバイスを参考に、I love you　を自分なりに翻訳してみましょう。

訳）

また、先にあげた翻訳家の鴻巣さんは、次のようなI love you の翻訳の例を語っています。

「あるとき、十五歳と二十歳ぐらいのアメリカ人の兄弟がいて、お兄さんがベトナム戦争に出兵していく。その時の別れの言葉として、「I love you,brother, I love you, brother」って弟が叫ぶ場面がありました」

（鴻巣友季子『翻訳教室　はじめの一歩』筑摩書房、2013、52頁）

問い３）　みなさんは、ここをどのように訳すでしょうか？（注１）

訳）

問い４）　和訳と翻訳、は何が違うのでしょうか。

注１）鴻巣さんの翻訳例は、本教材の１頁参照

参考文献）鴻巣友季子『翻訳教室　はじめの一歩』筑摩書房、2013